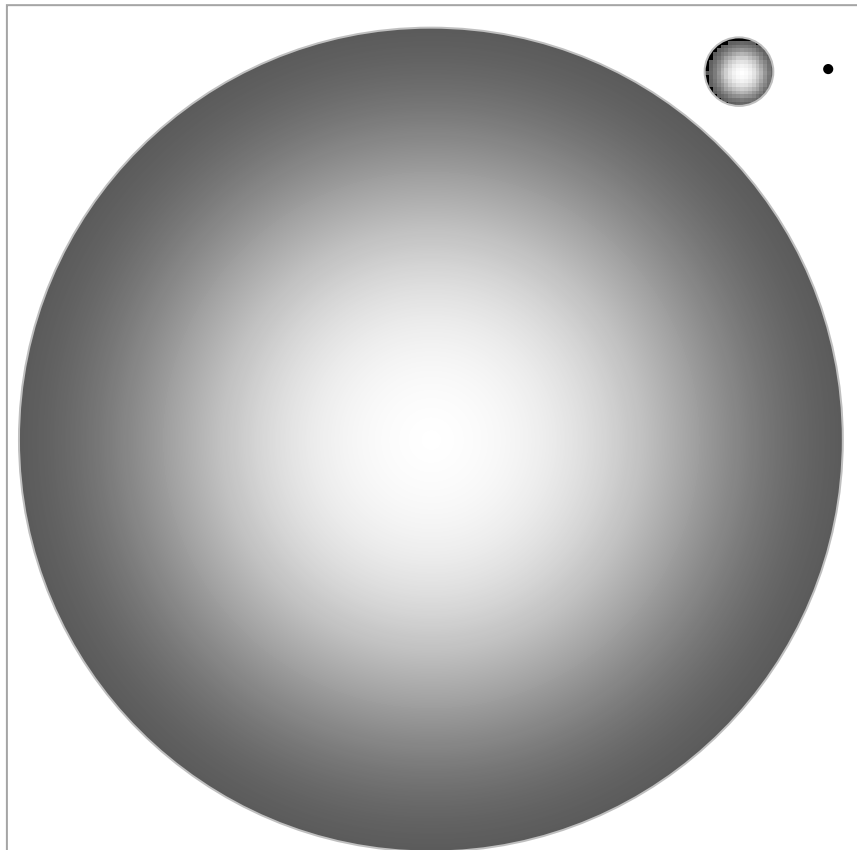


週刊 タバコの正体

タバコの煙は予想以上に広がり1本吸っただけでも25mプールいっぱい分ぐらいになる事を、前回紹介しましたね。白い煙は火のついたタバコの周辺だけにしか見えませんが、その粒子は非常に細かいので目に見えなくなって空気中をどんどん漂っていくわけです。ちなみに、よく考えると目に見えるニオイなんてありません。ニオイの粒子は小さくて目に見えないのが普通です。では、タバコの煙の粒子はどのくらいの大きさなのでしょう？



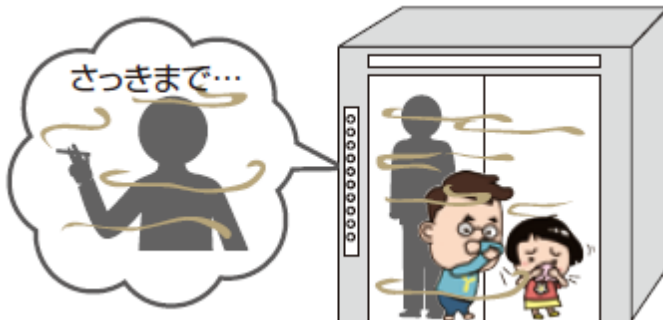
タバコの粒子の直径は、0.01～0.001 μm だそうです。と言われても実感がわかないでしょう。そこで、ちょっと次の光景を思い起こしてください。

例えば、降っているのがわからないくらいの細かい雨(霧雨)の粒子は100～50 μm 。遠くの景色がかすむような霧の粒子は1.0～0.01 μm だそうです。

それらの大小関係は、イメージ図のように大きい順に、霧雨の粒子、霧の粒子、そしてタバコの粒子ということになります。タバコの煙は、とんでもなく小さいことが分かります。

こんな小さい粒子だと、衣服や部屋中の物に行き渡ってしまい、そのニオイを除去するのは困難です。だから、喫煙が日常的に行われている部屋はいつも臭います。そんな部屋に入るとタバコのニオイを強制的に嗅がされることになってしまいます。煙がないので“受動喫煙”とはいえないこの状況は“残留受動喫煙”または Third Hand Smoke (サードハンドスモーク) と呼ばれています。部屋だけではなく、喫煙者とすれ

違っただけで臭う場合もサードハンドスモークに近いと言えるでしょう。



横浜市港南区「広報こうなん27年5月号」から

いかがでしょうか。タバコは吸い終わってからも、まわりに不愉快な環境を残していることを知っておいて下さい。